

鉄骨工事 Q&A	高力ボルト接合	低温下	制定	2024年7月1日
			改訂	

Q. 寒冷地で冬季低温下で高力ボルトを本締めする場合の注意事項は？

A.

寒冷地においては冬季の建方工事期間中に降雪に見舞われることが想定されます。鉄骨建方中、仮ボルトを挿入する時は天候が晴れでも夜から積雪という場合もあります。その場合、翌日積もった雪を払い落としてから本締め作業をすることは可能です。しかし、これはパウダースノーのようなさらさらした雪の場合であって、雪の量が多かったり降雨で凍結した場合は摩擦面にも水分が滞留していることが問題となります。そこで以下の注意が必要です。

- ① 常時氷点下の場合は、高力ボルトの使用範囲(0℃～60℃)を外れるため高力ボルトの本締め作業は原則中止する。工程計画上、氷点下でボルト締め付けを行うことが想定される場合はあらかじめ氷点下での高力ボルト導入張力確認試験を行ってその性能を確認しておくことが望ましいです。
- ② 外気が0℃以上でもスプライスプレート内で溶けた水分が再凍結している可能性があります。将来軸力の低下が懸念されるため本締め前にスプライスプレートと母材の間で凍結していないことを確認してください。
- ③ 鉄骨部材に付着した冰雪によって転倒や墜落災害が発生しないように、作業場所の状況を十分確認してください。



引用: 日本建築学会 鉄骨工事技術指針-工事現場施工編 2018 P 269